

全国大学生マーケティング・コンテスト参加報告

第16期生 北澤 涼平

◆全国大学生マーケティング・コンテストとは？

全国大学生マーケティング・コンテスト（以下、マケコン）とは、神戸市外国語大学が主催するビジネスコンテストです。この大会における大きな特徴は、英語でプランの発表と質疑応答を行うことです。小野ゼミは、この大会に、記念すべき第1回から参加しており、とりわけ第2回と第5回では準優勝、第3回と第4回では優勝を飾っています。第9回である今年度は、小野ゼミ第16期と第17期から“Team YSK”（著者、岩間、土谷、江碕）が参加し、協賛企業である株式会社ナカガワ文具センターの万年筆用インクブランド「Kobe INK 物語」のマーケティング・プランの策定に取り組みました。しかし、関東予選敗退という、苦汁を嘗める結果となりました。

◆発表の概要

僕たち“Team YSK”は、指定された数字と対応する色を塗るだけで、誰でも簡単に、塗り絵を楽しめるスマートフォンアプリをベンチマークとして、マーケティング・プランを策定しました。具体的には、アプリの仕組みをリアルに落とし込み、「Kobe INK 物語」の多彩なカラーラインナップを活かした塗り絵プラットフォームを作成するというプランを提案しました。

今回のプランの発表に対し、僕たちは、一際強い思い入れがありました。プラン案提出締め切り直前の深夜になっても、僕たちは、英語でプラン案をどう説明するのが最善なのか悩んでいました。そこで、小野先生に対面でご指導いただくことを懇願したところ、快くご自宅に招いてくださり、夜を徹してご指導してくださったのです。（写真は作業の息抜き中の様子です）よい結果を報告して恩返しをしたい。その一心で、プランの提出を完了させた後も、卒論や三田論の執筆の合間を縫って、プレゼン練習に励みました。迎えた発表当日。僕たちは、コンテスト開始時刻よりも、早く集合し、プレゼンの直前まで練習を行いました。そして、皆で精一杯のプレゼンをすることができました。関東予選参加チームは、僕たちを含めて12チーム。その内の4チームが決勝大会に進出することができます。しかし、決勝進出チームの発表において、“Team YSK”の名前が呼ばれることは、叶いませんでした。小野先生をはじめ、多くの方のご指導に報いることのできなかつた悔しさは、今でも忘れられません。



小野先生のご自宅にて、
眠そうな目でカホンを叩く土谷

◆発表後記

上述のように、僕たちは、関東予選大会で敗退し、決勝大会に進出することは叶いませんでした。決勝に進出したチームのプラン案は、そこまで画期的なものではありませんでした。しかし、プレゼンや質疑応答の随所の立ち居振る舞いに「自分たちのプランはすごいんだ」という自信が感じられました。ここが、僕たちのプレゼンに欠けていた部分だと思います。「卒論が忙しかったから」「三田論が忙しかったから」といくらでも言い訳をすることは、できます。しかし、言い訳をせずに、「あのスライドは、こうすればもっと伝わりやすかったな」「もっと良いプレゼンの仕方があったのではないか」と反芻し、また次の機会がやってきた時に、この後悔の念を晴らすことができるようにすることが、今僕たちにできることだと自負しています。

また、苦汁を嘗める結果となった今回のコンテストですが、僕たちにとって、良き思い出となったのも、事実です。皆さんもご存知の通り、小野ゼミ 4 年生のすることは、主に個々人の卒論執筆と後輩指導であり、皆で集まってグループワークを夜遅くまで行うことは、あまりありません。しかし、今回のコンテストの準備を通して、3 年生の頃に連日連夜議論した頃の、あの、「辛いんだけど楽しい」感情をもう一度経験することができました。さらには、三田論執筆の際にも、お伺いすることのなかった先生のご自宅にお邪魔して作業をするというレアイベント(?)も経験することができました。卒業を間近にして、最高の思い出を作ることができました。

この大会に出場するにあたり、何度もご指導くださり、ご自宅に快く招いてくださった小野先生、それからプレゼンの仕方やスライドの構成をご指導くださった大学院生さん・第 17 期の後輩たち、本当にありがとうございました。

そして、忙しい中一緒にプランを作成してくれたチームのみんな。このチームじゃなければ、忙しい卒論の追い込み時期に、マケコンに出場しようとすら考えなかったと思う。結果は残念だったけど、みんなとグループワークをした日々は、とても楽しかった。ありがとう。



“Team YSK”
(左から、江碯, 著者, 土谷, 岩間)